

生ましませしは我帝國は云はずもかな世界全人類に取りて何等の幸ぞや。さらば吾々青年は聖誕七百年を朴し決然として立ち意志を堅固に持ち荒海と一大苦闘を試み聖願たる「一天四海皆歸妙法」の實を舉げられん事を!!

身延の夕暮

高崎 一二

町から山、山から谷、溪から町、霧で一つばいである下の方から馬車の笛の音が淋しく聞えてくる。霧の中からふひに馬車馬の頭が浮かんだかと思ふと又消えて車の響が残つた霧から霧へ人馬が往來してゐる。

身延驛の方から汽笛が立ちこもる霧にしめつて悲しく聞へてくる。

邊りはまるで灰色の海に漬かつて仕舞い土産館のイルミネーションは薄い雲につままれてゐる。暮合の鐘は淋しく餘韻をひいて峰へへと廻ぐ

つて行く弱々しく吹く風は恰も天女のかなでる微妙の音楽の如く單調な自分の腦中に響いた。霧は段々と富士川の方に流れて行く、半弦の月は鷹取の山上にかへり立ちこめる霧の間に間に淡い光を放つてゐる、四顧寂莫たり唱題修行の法鼓の音静けさを破つて聞えてくる手に持つ灯燈に火を點けて淋しい山道を余は歸路についた。

偶感

井無田 壽水

舉世滔々與道違
風教墜地不知非
頽波砥柱今誰在
天下蒼生安適歸

留學生及び卒業生

前年度泉義敬師が宗學研究の爲め日蓮宗大學に松木本興師が臺學研究の爲天臺宗大學に留學を命